

令和3年度 第4回学校運営協議会 2月28日(月)書面開催

出席者 A委員：企業関係者
C委員：福祉関係者1
E委員：福祉関係者2
G委員：福祉関係者3
I委員：福祉関係者4
B委員：公民館代表
D委員：同窓会代表
F委員：行政関係者
H委員：PTA代表
本校校長

書面により回答いただいた内容

1. 「令和3年度学校評価」※教職員による評価(自己評価)、保護者による評価、児童生徒による評価の結果を受けての意見・感想
2. 令和4年度の学校運営計画(案)について、現時点での承認の可否及び意見
3. 令和4年度の学校運営協議会委員の継続についての回答
4. 令和4年度の学校運営協議会開催日程について
5. 次年度以降、オンラインでの開催となった場合の参加の可否について

1. 「令和3年度学校評価」※教職員による評価(自己評価)、保護者による評価、児童生徒による評価の結果を受けての意見・感想

重点目標1 教育的ニーズを把握した児童生徒主体の授業づくりの充実

- ・特別支援教育の専門性について職員の評価が低いものに対して、保護者・生徒は概ね半数以上は満足の評価であり、より丁寧でフォローの行き届いた教育が求められているが、職員は自信をもって現在の教育方針で進めて問題ないのでは。(A委員)
- ・日々の授業の様子を参観日など決まった日時で見定めて評価するより、授業を受けている本人の評価が大事と感じる。(D委員)
- ・十分に尽力されていると思う。ICTの導入と活用がもっと普及すると良いと思う。(I委員)
- ・達成状況×となっているが、先生方の指導は工夫され分かりやすいと考える。(H委員)

重点目標2 自立と社会参加に向けた教育の充実と希望進路の実現

- ・これも職員の評価は低いが、保護者生徒の評価は60%以上であり、「だいたい・・・」の評価まで入れれば90%以上なので問題ないと感じる。(A委員)
- ・自立と社会参加は重要なことだが、進路の選択肢も含めて簡単ではないと理解している。本人や先生方の努力だけでなく、地域社会や我々の責任でもあると感じる。(C委員)
- ・進路実現100%は地域との連携によるものと評価したい。にもかかわらず保護者評価が低いのが疑問である。(G委員)
- ・親としては、どうしても「あと少し上」や「うちの子には無理かも」とか葛藤がありますが、学校でのキャリア教育は不十分だとは思いません。もう少し保護者への周知のアプローチは必要かもしれない。(H委員)
- ・進路実現の他、卒業後の不安が家族にはあると思われる。ライフステージ移行時の関係支援機関の役割も求められると思う。(I委員)

重点目標3 地域社会に開かれた学校づくり、信頼される学校づくりの推進

- ・マナー指導の保護者・生徒の評価が高いのは指導の成果と考えられる。(A委員)
- ・新型コロナウイルスの影響で地域の方々との交流が難しい中、立根川のごみ拾いや草刈り

- 作業などとても素晴らしい取り組みだと思う。今後も必要な行事と考える。(C 委員)
- ・地域交流が難しい情勢の中で、地域の相談員の立場から見ると学校との連携は進んでいると考える。さらにその連携を高めるには、互いの役割をより認識することではないか。(G 委員)

- ・素晴らしいと思う。更なる向上を願う。(H 委員)
- ・コロナ禍が障害になっているが、力は尽くされていると考える。(I 委員)

重点目標 4 交流及び共同学習の充実と推進

- ・コロナ禍の影響で思ったような活動や例年の行事が縮小されて成果が出ないのではと感じる。(D 委員)
- ・コロナ感染拡大も含めていろいろな課題がある。いい方向に行くようにいろいろな課題の分析をしてほしい。(H 委員)
- ・オンラインでの交流などを積極的に活用してほしい。(I 委員)

重点目標 5 健康・安全教育および防災養育、復興教育の推進

- ・職員の評価と保護者・生徒の評価の乖離が見られる。明るく楽しい授業が行われていると思うが、職員の忙しさによる余裕のなさで職員の自己評価が低いのではないか。(A 委員)
- ・授業外の部活動や課外活動など生徒が夢中で打ち込める活動が増えれば満足度は上昇すると思うが、働き方改革との兼ね合いもあり難しい問題かと思う。(A 委員)
- ・安全指導については、けがをしないよう十分配慮され、職員配置も多く目の行き届いた管理をされているため、高い評価であると思う。コロナ禍の中で健康面では引き続き感染対策の徹底が望まれる。(A 委員)
- ・震災から 11 年が経過し、災害の記憶が風化しないように計画的な防災学習や緊張感を持った避難訓練はとても大切だと感じる。近年多い大雨洪水などの災害についても命を守る学習を重ねてもらいたい。(C 委員)
- ・震災から 11 年。今一度見直して気を引き締めていきたいと思う。(H 委員)
- ・コロナ禍における安全教育のあり方が変容しているなか、十分に対応されていると思う。(I 委員)

重点目標 6 学校いじめ対策組織の取組を中核としたいじめの防止

- ・いじめについて調査した後の面談で、実はいじめではなかったとの事例も見受けられること、保護者の心配な部分でもあることから、これからも生徒との交流と保護者との情報交換が大切だと感じる。(B 委員)
- ・多感な年ごろの子供たちが集まっている。同じ言葉・行動でも、相手が違うと「いじめ」ととらえることもある。「お互いの better」を目指し子供同士で感じ合ってもらいたい。先生方の指導には感謝している。(H 委員)
- ・学校と保護者間において、権利保護や合理的配慮、差別解消などの認識に齟齬がないように理解を求めていく必要がある。(I 委員)

その他

- ・達成目標の数値が高く設定されていると感じる。目標に達していないとしても、数値としては決して低くはないと思う。(B 委員)
- ・保護者の願いが伝わってきた。全体的には良好と思われる。(B 委員)
- ・児童生徒の評価の中の寄宿舎のきまりに関する内容について、団体生活でありもちろんきまりは必要だが、子どもたちが厳しいと感じるところが具体的にどのようなところか気になる。(C 委員)

- ・校長先生はじめ教職員の皆様には子供が在学中から今までたいへんお世話になりました。今後もお手伝いできることがありましたら声をかけてください。(D 委員)
- ・学校評価の報告書の評価は、自らに高い基準を課しており達成に向けた今後の活動に期待したい。(F 委員)
- ・たくさんの課題があるが、そこには絶対に「チャンス！」があるはず。「焦らない。でもあきらめない。」(齋藤茂太) (H 委員)

2. 令和4年度の学校運営計画(案)について、現時点での承認の可否及び意見

①承認について 9名承認(1名未提出)

承認が過半数を超え、承認されました。

②意見等

- ・単年度ごとの重点目標は、学校で一番課題となっている項目1～3つ程度に絞って取り組まれた方がよい。あまり目標が多すぎると手が回らなくなりどれも中途半端な取り組みに終わり、職員の業務が増えるだけで課題の解決に至らない場合が多いのではないか。(A 委員)
- ・令和3年度重点目標6の「いじめの防止」が令和4年度目標にはなかった。取り組みの成果が見られた結果だと思うが、目標としてはあってもいいのではないか。(C 委員)
- ・新規提案が半数以上というのは良いことだと思うが、現時点で具体的、あるいは比較的实现可能な案を、継続や見直しを含めて保留することも必要ではないか。(D 委員)

3. 令和4年度の学校運営協議会委員の継続についての回答

省略

4. 令和4年度の学校運営協議会開催日程について

省略

5. 次年度以降、オンラインでの開催となった場合の参加の可否について

省略